

ZENFAUREN

附属だより
第122号

全国国立大学附属学校連盟・一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会
～子どもたちとこの国の未来のために～



全附連ホームページ



全附P連チャンネル

全附P連PTA研修会 第14回全国大会

令和5年9月29日(金)～9月30日(土)



文部科学大臣

盛山正仁氏

本日ここに、全国国立大学附属学校PTA連合会PTA研修会の第十四回全国大会が開催されますことを、心よりお喜び申し上げます。
皆様方におかれましては、日ごろよりPTA活動を通じ、学校教育へのご支援、子どもたちの健全育成のために多大なご尽力をいただき、誠にありがとうございます。
全国国立大学附属学校PTA連合会におかれましては、これまでもいじめ防止や障害者理解に関する取組みに積極的にご尽力され、近年においては、オンラインツールを活用した文化活

動の推進など、大変なご努力と創意工夫の下、様々なPTA活動が進められていることに対しまして、感謝申し上げます。
社会が大きく変化する中、文部科学省では、令和の日本型学校教育を実現し、教育の質の向上につなげるため、教師の働き方改革の更なる加速、「GIGAスクール構想」の着実な推進と学校DX化などを進めているところです。今後、新しい時代の学校教育が実現されていくにあたり、国立大学附属学校がより先導的な役割を果たしていただくことを期待しています。

皆様方におかれましては、学校・家庭・地域の連携・協働を牽引いただくとともに、学校教育のよき理解者として、今後とも、附属学校の教育に引き続き、ご理解とお力添えをいただきますようお願いいたします。
文部科学省としても、これからの時代を生き抜いていく児童生徒が、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となることができよう、PTAの皆様と手を携え、我が国の教育の充実に取り組んでまいります。
結び、今回の大会が実現するの多量となりますことを期待いたしますとともに、全国国立大学附属学校PTA連合会の益々のご発展と、皆様方の一層のご活躍を祈念して、私からの挨拶といたします。

基調講演

鳴門教育大学大学院
特命教授
阪根健二氏



近年、いじめの件数は益々増加しています。これはインターネットやSNSなど、子どものコミュニケーションが複雑化したことや、文部科学省の指導による報告件数の増加により、これまでの潜在的ないじめが、表面化したことに大きく依るものと思われまます。
そこで全国大会1日目の基調講演では、鳴門教育大学大学院特命教授阪根健二氏を講師に「なぜいじめ対策が難しいのか」をテーマに講演いただきます。ご自身も保護者としてPTA活動を経験されたということもあり、教壇からの目線だけではなく、PTAや保護者の目線からいじめに対する考えを聴くことができました。
いじめ問題に関する講演は、一般的に会場が重い空気に包まれ進んでいくことが多いのに対し、本講演はいじめについて真摯に向き合いつつも、自らの体験をユーモアを交えてお話しいただき、また色紙を使用した参加型であったため、いじめに対する答えのない全ての多様な考え方を肯定する楽しくわかりやすい学びの時間となりました。


講演の中で特に印象的だったのは、「いじめられる子には、非はなし」という言葉です。今一度、この言葉の真意を深く考え、子どもたちに寄り添い、何ができ、何をすべきなのか、目を背けずに立ち向かおうと勇気づけられました。



講演の中で特に印象的だったのは、「いじめられる子には、非はなし」という言葉です。今一度、この言葉の真意を深く考え、子どもたちに寄り添い、何ができ、何をすべきなのか、目を背けずに立ち向かおうと勇気づけられました。

LINEUP	
全附P連 PTA研修会 第14回 全国大会	1～4面
全附連盟特集	5面
特集 スポーツ 省庁・附属学校・PTA	6面
全附P連絵画コンクール2023	7～9面
附属学校・PTA・地区会活動紹介	10面
全附P連 事業告知	11面
全国の国立大学附属学校	12面


新時代の子どもたちへ



一般社団法人
全国国立大学附属学校PTA連合会
会長 桑名 良尚
(三重大学教育学部附属小学校)

コロナ感染症も収束にはいたらず、いまだ十分に安全な生活状況ではございませんが、運動会や文化祭などで子どもたちが元気に楽しむ姿をこころからうれしく感じています。
子どもたちが生きる時代は、「仮想空間と現実空間を融合させ、経済発展と社会的課題の解決を両立するソサイエティ5.0時代」であり、「柔軟な思考力やクリエイティブな能力が求められる時代」であり、「グローバル時代」かつ「予測困難な時代」にあります。新時代は、多様な能力を重視し、社会貢献やグローバル化に対応する能力を求めています。
子どもたちの能力や特性に気をかけ、他者と協力しあう「令和の日本型PTA」を掲げ、全附P連は、附属学校や子どもたちとともに成長していきます。
今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

コロナ禍がくれた、振り返りの機会



全国国立大学附属学校連盟
理事長 鎌田 正裕
(東京学芸大学附属竹早小学校長)

9月に開催の全附P連PTA研修会全国大会に参加し、所属する皆様の熱意と行動力に改めて感銘を受けました。
コロナ感染症の5類への移行を受け、附属学校園に関する多くの活動が以前の姿を取り戻しつつある中、「コロナ禍以前はどうだったのか」や「コロナ禍以前はどうしてそのようなやり方だったのだろうか」と考えることが増えました。これは、単純に以前のことを忘れてしまったり、それを熟知した人が異動したからだけではなく、この3年間で社会が求めるものが変化したり、その間に使えるようになったICT技術・環境によって、私たちの生活様式が変わったことも大きいと思います。コロナ禍は、私たちにこれまでの活動を振り返る貴重な機会をくれました。この機会を生かし、今後の附属学校園の姿について一緒に考えていきたいと思っております。

全附P連 PTA研修会

第14回全国大会



国立大学附属学校
全国同窓会 会長
塩谷立氏

初めに大会開催のお祝いのお言葉とともに、大会規模がコロナ禍以前に戻りつつあることをお慶びいただきました。

続いてご自身が附属学校の出身ということ、その時代を懐古しつつ、全附P連との出合いの経緯や、その情報発信力に期待していることを熱意を持ってお伝えされました。また附属学校の施設整備の遅れへの危機感が一因となって設立された



国立大学附属学校
振興議員連盟 会長
森英介氏

初めに大会開催のお祝いのお言葉とともに、「議員連盟は附属学校の応援団である。」とお言葉がありました。

続いて附属学校は、大学や地域と連携して行う教員養成や学校教育の実践研究による指導方法の開発など、我が国の公教育の根幹を支えており、教育水準の向上を実現する役割を担っている、いわば公益性を持った学校であるにも関わらず、様々な問題を抱えており、



全国国立大学附属学校連盟
理事長
鎌田正裕氏

初めに大会開催のお祝いのお言葉とともに、全附P連による附属学校への活動支援に対し、御礼のお言葉がありました。

続いて日本教育の質の高さを改めて感じていることとして、アジア諸国の教育関係者との対話をご紹介いただきました。諸外国ではコロナ感染症拡大により、子どもたちの教科学習の遅れが目立ち、今大きな課題となっているにも関わらず、日



日本教育大学協会
会長
國分充氏

冒頭、大会開催のお祝いのお言葉とともに、リモートによるご挨拶となったことに対し、陳謝のお気持ちを表明されました。

続いて、ご自身が会長を務められる日本教育大学協会が、56の国立教員養成系大学学部によって構成されることや、その重要な役割である教員養成の支援についてご説明がありました。そして教員養成において附属学校の存在が極めて重要であ



一般社団法人
全国国立大学附属学校PTA連合会
会長
桑名良尚

多くの方にご参加いただきまして誠にありがとうございます。様々なことを実現していくうえで大切なことを学んでいます。個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し

子どもたちは、附属学校という社会の中で、異なる立場や考え、そして価値観を持った者同士が、互いの境界を越えて混ざり合い、学び合い、一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに他者を価値のある存在として尊

PTA 団体表彰発表



北海道教育大学附属
釧路義務教育学校
後期課程PTA
副校長
田中陽一氏

子どもたちが自主性を持って参加し、教職員とPTA、そして地域の方々にも参加いただく、新たな地域イベント「サンセットフェスティバル」を実施しました。背景には、新学習指導要領の改訂、義務教育学校への移行、新型コロナウイルスの流行等があり、従来の「決められた枠の中で力を発揮す

る行事」から、「地域と共に創造する地域探究学習」への転換を図りました。PTAは、企画段階で参加し、PTAストアの運営や地域発表などを行い、売り上げは次年度開催への資金に使用し、持続可能なイベントを目指しています。参加した子どもたちや地域の方々からは、地域の活性化のためにアイデアを出し、実現できたことへの達成感があったという感想が多く寄せられました。

省庁行政説明

「金融リテラシー」について

金融庁
総合政策局 総合政策課
課長補佐
串田有氏



金融経済教育の重要性、金融経済教育に対する金融庁の具体的な取組みについてのご説明がありました。お金に関する知識や判断力を意味する「金融リテラシー」を高めることが非常に大切であり、金融経済教育を受けた方は、経済的に自立したより良い暮らしを将来的におくることができるとい調査結果についても触れられ、SNSの発達によるトラブルに巻き込まれる事案を事前に防ぐ為にも活用できるというお考えをお伝えいただきました。

「財政教育プログラム」について

財務省
大臣官房地方課
広報連絡係 課長補佐
浅井智士氏



財政教育プログラムとは、グループワークにおいてどのような社会を目指すのかということ話し合い、タブレット端末を使って目指す社会を実現するための予算編成シミュレーションを行うアクティブラーニングであることのご説明がありました。またプログラムを実施することで、①日本財政への興味、②社会問題の把握、③愛益と負担の両面性の理解、④民主主義的過程の認識、の4つの効果が得ることができるといお考えをお伝えいただきました。

附属学校の使命、役割について

文部科学省 総合教育政策局
教育人材政策課
教員養成企画室長
小倉基靖氏



文部科学省が期待する附属学校の役割についてのご説明がありました。まず実践的で先導的な学校教育の実現があり、地域における指導的な学校となる役割への期待があるとのことでした。次に教員を目指す学生に対する教育実習の実施、そして最後に大学や学部における教育に関する研究協力の役割への期待をお伝えいただきました。また教員確保に向けた国立教員養成大学や学部における教員就職率向上の取組みについてもご紹介がありました。

全附P連 PTA研修会

第14回全国大会

1	12:00 13:00	15:05 15:20	16:10 16:20	17:50 18:00	19:00
目	受付	開会行事 基調講演 120分	休憩	行政説明 PTA活動事例発表 60分	休憩
				テーマ別 分科会 90分	情報交換会



分科会2

全国大会分科会2では、千葉大学教育学部附属小学校校長の鈴木隆司氏を講師にお迎えし、「変化する時代の子育てとPTAの形」をテーマに、現代的なライフスタイルを反映したPTAの気づきについてご講演いただきました。

また、先駆的なPTA活動を行なっている附属学校として、上越教育大学附属中学校前PTA会長の谷和弘氏、埼玉大学教育学部附属中学校PTA会長の田中重弓氏の両名から今後のPTA活動のあり方を示唆

する事例のご紹介がありました。

その後、これらのご講演や事例発表をもとに、全附P連直前会長の太田昌士をコーディネータとしたパネルディスカッションが行われ、活発な議論が交わされました。

最後に、文部科学省総合教育政策局地域学習推進課家庭教育支援室長の西明夫氏よりご助言があり、「親が子どもに様々な経験をさせてもらっている視点が重要である」との貴重なご意見をいただきました。



変化する時代の子育てとPTAの形

最後に、文部科学省総合教育政策局地域学習推進課家庭教育支援室長の西明夫氏よりご助言があり、「親が子どもに様々な経験をさせてもらっている視点が重要である」との貴重なご意見をいただきました。



分科会4 特別支援部会

全国大会分科会4では、文部科学省から行政説明に五十嵐裕氏、助言者に加藤宏昭氏をお招きし、文部科学省のこれまでの歴史や取り組み、また今後の方針についてご説明がありました。

また障がい者サポーターズ「Gola-zo」(ゴラツソ)代表の相澤直氏、「ベガルタ仙台」普及担当部長兼スクールマスターの渡辺篤史氏、筑波大学国際総合学類4年の上野開美氏を講師としてお招きし、独自の取組みについてご紹介いただきました。

障がいがある子もいない子も一緒に楽しめる場にしたい。障がいがある子も一緒に楽しめる場にしたい。障がいがある子も一緒に楽しめる場にしたい。

最後に、パラスポーツとインクルーシブスポーツの違いについて学びました。子どもたちの健やかな成長のために親として、地域としてできることは何なのか考える良いきっかけとなりました。



「すべての人がスポーツを楽しめる場の創造を目指して」
～インクルーシブスポーツキャラバンにおける取り組み～

障がいがある子もいない子も一緒に楽しめる場にしたい。障がいがある子も一緒に楽しめる場にしたい。障がいがある子も一緒に楽しめる場にしたい。



分科会1

全国大会分科会1では、株式会社ミキハウス社長室の坂本達氏を講師にお招きし、夢の力についてご講演いただきました。

学校に馴染めなかった子どもの頃に父から世界の広さや多様性を教わり、その後就職した会社で、自転車世界一周をプレゼンし承認されたとき、これは頑張る人を応援する夢の力だと確信されたことでした。

そして世界のような地域で体験したことは、自らの考えを根底から変える出

来事ばかりで、帰国後はこの体験を子どもたちに伝えたいと思いい、自転車で日本を縦断し、夢を伝える「夢の架け橋プロジェクト」を遂行されました。また本を執筆し得た収益で、アフリカに戻り井戸を掘るなど世界各地で恩返しを行ったそうです。

結びに、助けを求めるときや思い込みをやめることの大切さを説かれ、「世界を変えたいならまずは自分から行動するという気持ちで知恵を出し合い、夢を叶えてほしい。」というお言葉がありました。



「自転車世界一周の夢実現」
～夢の始まりは学校になじめないことだった～

また近年、多くの関心が寄せられている日本版DBS(性犯罪歴確認制度)の検

討状況についてもお話があり、対象者の資格管理の厳格化の難しさや、子ども性被害防止プラン、子ども関連業務従事者の性犯罪歴等の確認の仕組みに関する有識者会議の内容について、制度制定には多くの難しい問題点があることのご報告がありました。

質疑応答では、幼稚園や保育園の今後の在り方や、ヤングケアラーなどへの声掛けの方法、子どもの意見聴取の方法など、多くの活発な質疑応答が行われました。

分科会3



また近年、多くの関心が寄せられている日本版DBS(性犯罪歴確認制度)の検

全国大会分科会3では、こども家庭庁成育局総務課長の高田行紀氏に、本年4月に新しく発足したこども家庭庁の役割や設置経緯、今後のこども・子育て政策についてご講演いただき、こども家庭庁の課題や政策スケジュール、少子対策の実現やこどもまんなかアクションの展開などについて、詳細なデータを用いた丁寧なご説明が行われました。

こども家庭庁と今後のこども・子育て政策について

質疑応答では、幼稚園や保育園の今後の在り方や、ヤングケアラーなどへの声掛けの方法、子どもの意見聴取の方法など、多くの活発な質疑応答が行われました。

こども性被害防止プラン、子ども関連業務従事者の性犯罪歴等の確認の仕組みに関する有識者会議の内容について、制度制定には多くの難しい問題点があることのご報告がありました。



情報交換会



全国大会1日目の最後にコロナの影響でここ数年中断されていた情報交換会が、実に4年ぶりに開催されました。しかし、コロナ禍以前と同じ様な食事を伴う開催はまだ難しく、簡易なドリンク形式で1時間程度で行われましたが、多くの方々にご参加いただくことができました。

関係省庁や分科会講師などの方々をご来賓にお迎えし、全国の附属学校の教職員や保護の皆様が、和やか雰囲気の中、互いに交流を深める時間を共に心から楽しもうとする様子が伝わってきました。

非常に限られた時間ではありましたが、終了後には参加者からは久方ぶりの開催を喜ぶお声とともに、とても有意義な時間であったとお声をいただきました。全国各地から来場された皆様、一堂に会し意見交換ができる情報交換会の意義を改めて感じる事ができました。

教育後援会会長会



全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議会は昨年度を大幅に上回る約九十名の参加をもって開催いたしました。今年度は、寄付金取り扱いに関する運営ガイドラインの発刊を記念して、参加者へ本冊子を配付するとともに、本ガイドラインの発刊の経緯と概要について幡谷直前理事長から説明いたしました。また寺本理事長が所属校である滋賀大学附属学校園の事例を共有し、具体的な改革事例について理解を深めました。後半のグループディスカッションでは各学校園での状況と課題に関し活発な意見交換がなされました。今後は本ガイドラインを用いて、全国の教育後援会が等しく正しい運営を行うために、教育後援会長の初任者も後援会のあり方を正しく理解し、加盟校がともに学びあえるような活動を行ってまいります。

全附P連 PTA研修会

第14回全国大会

2日目	8:30 9:00 受付	10:15 基調講演 75分	10:45 11:10 全附P連 事業紹介 30分	12:30 (12:40) パネルディスカッション 80分
-----	-----------------	----------------------	------------------------------------	-------------------------------------

基調講演

株式会社ヘラルポニー
代表取締役副社長

松田文登氏

大会2日目の基調講演は、株式会社ヘラルポニー代表取締役副社長の松田文登氏をお招きし、「異彩を、放て。〜福祉×アートで世界を変える〜」と題して、ご講演いただきました。

松田氏は、4歳年上の兄・翔太氏が、小学校時代に記していた謎の言葉「ヘラルポニー」を社名に、福祉領域のアップデイトに挑まれ、2019年には、世界を変える30歳未満の日本人30人「Forbes 30 UNDER 30 JAPAN」を受賞されています。

講演の冒頭では、「ヘラルポニー」という会社が、どのような経緯で生まれ、どのような価値観を持っているのかというヘラルポニーの思想そのものを社会に届けたいと考えており、本日の講演でも、そのような話をお伝えできればと考えています。旨、ご挨拶いただきました。

異彩を、放て。 〜福祉×アートで世界を変える〜



や「欠落」という言葉を連想するような社会ではなく、「違い」や「個性」という言葉に変換できるような未来をどうやって描けるのか、という視点をお持ちです。

そのような視点から、支援・貢献の文脈ではなく、障害のある方の好きなこと、得意なことに目を向け世の中に発露していくことで、社会の価値観を変えていく、そのような役割を担いたいと考えているそうです。

そのような考えに基づき、具体的には、障害のある作家の原画やアート作品データの著作権管理を軸として、それらを様々な物・場所・場所といったシーンに落とし込むことで、社会の価値観を変えていくことを実践されています。

実際に、障害のある作家の作品がどのようなシーンに落とし込まれているのかを講演の中で数多くご紹介いただきましたが、正直、想像を超えるような様々なシーンで活用されていることに驚かされました。また、障害のあるお兄様やご家族とのエピソードもお話しいただきました。

会場内には、ハンカチで涙を拭く方も散見され、講演全体にわたり、聴いている者にとって大変胸に迫る内容だったのがとても印象的でした。

その他、印象深かった話題の一つに、「ヘラルポニー」の購入者・体験者の5人中4人は、3か月以内に友人・家族にヘラルポニーについて話した」というイギリスの60decibels（シックスティードシベルズ）社の調査結果に関する話題がありました。本講演を聴かれた方の中にも、そのような調査結果が、すぐに実体験に変わったという方も多かったのではないのでしょうか。

松田氏の講演に会場全体が引き込まれていく様子がありありと感じられ、まさに、ヘラルポニー社が社会の価値観を変える場面を垣間見るような、そんな素晴らしい基調講演となりました。

パネルディスカッション



▲パネリスト▼

文部科学省総合教育政策局
教育人材政策課
教員養成企画室長
小倉基晴氏

奈良女子大学附属中等教育学校
校長
吉田隆氏

東京学芸大学附属竹早小学校
元副校長
彦坂秀樹氏

埼玉大学教育学部附属小学校
副校長
神谷直典氏

一般社団法人全国国立大学
附属学校PTA連合会
元会長
呉本啓郎

一般社団法人全国国立大学
附属学校PTA連合会
会長
桑名良尚

▲コーディネーター▼

全附P連活動報告

全附P連活動報告では、附属学校がその使命と役割を果たすため、全附P連が取り組んでいる支援活動についてご報告しました。初めに、いじめ防止対策活動事業やあいさポーター研修についてご説明しました。続いて、SNSを活用した情報発信や、関係省庁への訪問、また国公立PTA4団体との連携など、附属学校と社会とのつながりを重視した活動についてお伝えさせていただきました。今後も全附P連は、「対話」を大切にした附属学校を応援する活動に取り組んでいきます。



全国大会2日目後半は、上記パネリストの皆様をお招きし、「これからの附属学校の期待されるあり方」というテーマで、パネルディスカッションを開催いたしました。

パネルディスカッションでは、平成29年8月に示された有識者会議報告書の内容説明に止まらず、同報告に至るまでにあった国立大学附属学校の存続危機などにも言及があり、当時の附属学校関係者の危機意識を、臨場感をもってお伝えいただきました。議論が白熱するあまり一部予定の変更が生じたことは、

今後の運営における反省点となりましたが、有識者会議報告書を経て実施された学校事例として、東京学芸大学附属竹早小の事例や埼玉大学教育学部附属小の事例をご紹介いただき、全国の附属学校でも参考になりそうな具体例を共有していただくことができました。

最後には、残された時間の中で、ご参加いただいたパネリストの皆様から順次、テーマに関連した貴重なご意見・ご感想を頂戴することもでき、盛会のうちに幕を閉じることができました。

大会宣言

新型コロナウイルス感染症拡大による新しい生活様式から、ようやく日常の生活に戻ってまいりました。コロナ禍で培い、蓄えてきた様々な知恵は、参集型開催の今回の全国大会でも随所に活かされ、資料のデジタル化・オンデマンド配信は今大会も実施しています。

変化の激しい時代に生きる子どもたちの直面する様々な事象を知り、激動の時代を生きていく力とは何か、を改めて考える機会が多くなりました。

そこで、「子どもたちとこの国の未来のために、新時代の扉を開こう！これから求められる力とは」をスローガンに掲げ、全附P連PTA研修会第14回全国大会を開催しました。

本大会は、いじめ対策の難しさやPTA活動の意義を問い直すなど、以前からの課題、「国立大学附属学校のあり方検討会」の内容を振り返ること、より国や地域に必要とされる国立大学附属学校となる

ための方策や今後の可能性について、共有してまいりました。一方、4月に新設された「こども家庭庁」からの講演、ダイバーシティ・多様性社会という視点からの講演もいただき、まさに今の国立大学附属学校や、そこに通う子どもたちを取り巻く課題について、各々の立場でどのように関わることが良いのかを検討し、共有することができました。「温故知新」の今大会は「令和の新しい日本型PTA」が始動するきっかけとなりました。

本連合会では、子どもたちとこの国の未来のために、国立大学附属学校におけるPTA活動の振興を図り、国立大学附属学校が持つ使命、存在意義を国や地域に広く発信・共有してまいります。さらに、国立大学附属学校がより公益的・公共的な役割を果たせるよう、積極的に活動を展開することをここに宣言いたします。

大会記念品・販売ブース

当日会場にご参加いただきました皆様に、全国の国立大学附属特別支援学校の生徒が作成した製品を昨年に引き続きエコバックに入れお渡ししました。

また、販売ブースでは、筑波大学附属大塚特別支援学校の生徒に販売のお手伝いをいただき、生徒たちが作った焼き菓子の詰め合わせやマグネット、卒業生が通所する福祉事業所で製作されたレザークラフト製品などを販売させていただきました。



全附連盟特集ページ「附属学校における大学と連携した取組み」



宮城教育大学附属四校園と 大学との連携について

宮城教育大学附属学校部長
木下 英俊

私が申すまでもなく、大学との連携による、学校教育に関する研究・教育の推進は国立大学附属校園の重要な使命です。専門性の高さや先進的であることだけでなく、地域のモデル校として汎用性のある研究・教育の成果も要求されます。

宮城教育大学で設定されている「重点支援研究経費」において、大学の研究者が附属校園をフィールドにして研究を行う際には、附属校園の教員も共同研究者となり、お互いがウィンウィンの関係になるように協議しながら研究・教育を進めています。

本学では、この重点研究経費による研究のみならず、附属四校園の公開研究会への大学の研究協力、また日常的な教育の在り方や教育方法に関する大学教員と附属校園の教員とのディスカッションを積極的に行っています。

附属学校部ではこういった、大学と附属校園との研究・教育に関する連携について、それぞれの状況をしっかりと把握するとともに、それらを附属校園同士で情報共有するようなやり方を構築しようとしています。このことによって、各校園での新しい研究・教育のヒントやアイデアづくりに役立ったり、校種間の連携、接続のプログラムづくりにも有効に機能することを期待しているところです。

本学の附属幼稚園、小学校、中学校は仙台市中心の上杉キャンパスに、また特別支援学校と大学は郊外の緑豊かな青葉山キャンパスにあります。物理的な距離は少しありますが、以上のように附属四校園と大学とが一体となった、研究・教育上の連携に努めています。

幼稚園

三重大学教育学部附属幼稚園における大学と連携した取組

三重大学教育学部附属幼稚園では、教育学部教員の専門的な知見を活かし、連携して保育活動や保護者活動、子育て支援等を計画、実践しています。大学と連携して様々な活動を行うことにより、保育内容の充実や子どもたちの興味関心の広がりと深まりが見られ、保護者の満足感や学生の育成にもつながっています。

- 保育活動**
 - 年少組「大きなピロニアで遊ぼう！」
 - 年中組「ピカチュウに化しよう〜園遊会から帰ろう〜」
 - 年長組「忍者の修行」
- 親子活動**
 - 年少組「大きなピロニアで遊ぼう！」
 - 年中組「ピカチュウに化しよう〜園遊会から帰ろう〜」
 - 年長組「忍者の修行」
- 星を見る会**
 - 理科教育講座教員、学生に手伝ってもらい、天体望遠鏡で月や星を見る観察をします。
- どんぐり博士と木の探検**
 - 「どんぐり博士」と呼ばれる理科教育講座の教員と一緒に年長児が園庭の樹木や木の実に触れ、質問に答えてもらったり、樹木の話を聞いたりします。
- 英語であそぼう**
 - 英語教育講座の教員と学生による活動です。令和4年度は年長児を対象に『英語の絵本を聞く、歌ってもらう〜自分の絵本を作ってみよう』というテーマで2回実施しました。英語に触れて遊ぶ活動を通して、英語に親しみを覚え、表現することを十分に楽しめました。
- 子育て支援**
 - 幼児教育講座の教員と学生が未就園児やその保護者とのかわり、手遊びやふれあい遊び、紙芝居等の活動を企画、実施します。年間15回の活動です。
- コアラの会(赤城園児の会)**
 - 幼児教育講座の教員と学生が未就園児やその保護者とのかわり、手遊びやふれあい遊び、紙芝居等の活動を企画、実施します。年間15回の活動です。
- 保護者の学び**
 - 保護者同士の親睦を図り合う場として、保護者の企画による講演会等を行っています。令和4年度は「子どものころを感じて」のテーマで幼児教育講座教員のお話を聞き、参加者が語り合う場を設けました。

小学校

中学校

北海道教育大学附属旭川小における大学と連携した取組

北海道教育大学附属旭川小学校では、児童が音楽に親しむ機会を大切にしており、令和5年度は、6月と9月頃の2回、教育大学の学生による演奏会を開催し、本物の音に触れる機会をつくりました。1月には音楽フェスティバルを実施し、1年生から6年生までが、学年の個性を生かした演奏を聴き合う活動につなげていきます。

6月「音楽鑑賞会」

教育大で音楽教育を専攻する学部生、大学院生、研究生、約50名が1日限りの合同演奏会を企画、本校で演奏してくれました。3年生から6年生までの児童が参加し、「フラッシング・ウィズ（ヤン・ファン・デル・ロースト）」、「新時代（Acho）」、「すみれの花のように（八木澤教子）」など、計7曲を演奏してくれました。途中で、「児童による指揮体験」の時間もあり、児童の指揮棒の動きに合わせて音が大きくなったり、演奏が速くなったりとアンコールに応じて本校の学園歌を演奏してくれました。学生の演奏に合わせて児童は合奏し、みんなで音楽をつくり上げるよさを味わうことができました。

とても楽しく、わくわくする曲をありがとうございました。2曲目の「新時代」の音が良かったです。指揮体験ももちろん、低学年から高学年まで楽しめました。（6年生）

9月「音楽鑑賞会」

教育大で音楽教育を専攻する2年生の学生による音楽鑑賞会です。小学校の2年生から4年生を対象に演奏してくれました。学生が、「ハートごと」「これはどんな楽器の仲間かな？」「児童に聴いてほしい曲、木管楽器、金管楽器、打楽器などを演奏を交えながら紹介してくれました。最後は、学生が「ジャンボミッキー」と歌声を上げながら演奏を開始すると、児童はリズムに合わせて踊りました。

おにいさん、おねえさんのえんそうを聞いて、もっと音楽がすきになりました。今日はきれいなえんそうを聞かせてくれて、ありがとうございました。（2年生）

ぼくの知っている曲が多かった。いろいろな楽器の音を聞くことができました。「大切なものは、自分たちが練習している曲なので、とても感動になりました。（4年生）

東京学芸大学附属小金井中学校「地質野外観察実習」

<3つの修学旅行> 本校では、3つの学年の宿泊旅行をすべて「修学旅行」と名付けています。教科の学習を中心とした「学を修める」旅行だからです。第2学年では、埼玉県秩父・長瀨地方において地質野外観察実習（2泊3日）を昭和37年度から実施してきました。秩父・長瀨地方は「地質学発祥の地」として知られており、様々な地形、地層、岩石・鉱物、化石などの観察を行うことができます。

<大学との連携> 地質の宝箱のような地域で野外実習を指導するためには、専門的な知識や技能が必要となります。そこで、この旅行が始まった初期の段階から、東京学芸大学の地質学教室の先生方より、観察地ごとの指導のポイントや「見学ノート」に掲載する資料などについて、ご指導・ご助言をいただきました。また、旅行にもご同行いただき、観察地ごとにご指導をいただいています。宿舎における夜の学習の時間には、専門的な内容についての講義を、中学生にも分かるように精選して行っていただきます。生徒たちは、大学の先生（地質博士）にご指導いただけることに、最初は緊張感がありますが、次第に「学ぶことの面白さ」に引き込まれて、ワクワクしながら学習活動に取り組んでいます。それらの成果は、事後学習においてまとめます。

高等学校

特別支援学校

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校における高大連携の取組

本校では平成25年より、東京藝術大学音楽学部器楽科管打楽器専攻1年生の「管打合奏」「室内楽」という授業に、本校管打楽器専攻生が出席して、高校の「重奏」（アンサンブル授業）という科目の単位に置き換えています。

管打楽器（クラリネット、サクソフォン、ホルン、トランペットなど）は、人とアンサンブルをしながら成長していくことが大切な楽器ですが、本校では長い間、少ない専攻生に対してそのような教育環境を整えることができていませんでした。

現在の授業の取組が始まったのは、これらを我がこととして捉えてくださった大学管打楽器科の先生方のご提案でした。本校生徒のみならず大学生からも好評で、今では芸高生の存在はなくてはならないものとなっています。

芸高生、大学生の声

芸高生
「芸高ではオーケストラしかやらないので、ソロばかりになってしまうけど、吹奏楽では同じパートの人がいるので合わせる練習になった。」
「芸高と同じ専攻の友達がないので、芸大生に混ざって一緒に室内楽をするのが刺激になった。」
「大勢の音を聴きながらリズムや音程を合わせることが難しかったけど勉強になった。」

芸大生
「芸大に入りたいと考えている高校生と一緒に音楽をすることで、よりレベルの高い練習ができたのではないかと感じた。」
「大学だと一番下の存在だけど、芸高生が入ると自分たちより学年が下の人がたくさんいるので気が引き締まった。」

群馬大学共同教育学部附属特別支援学校 150th

プログラミングに挑戦！！ ケーキを買ってお城を目指そう

プログラミング用学習ロボット「PETS」

★2022年7月11日
学習活動：「PETS」について知る
①PETSの仕組みを理解する。
PETSには、3つのカードがあり、それぞれがどのような意味をもつか、どのようにブロックが動くか、児童が実際に触って動かしながら理解した。
②ロボットをカスタマイズする。
新たに動物や乗り物のカードを作成したり、好きな絵を紙に描いてロボットに貼ったりしてオリジナルのロボットを作成した。

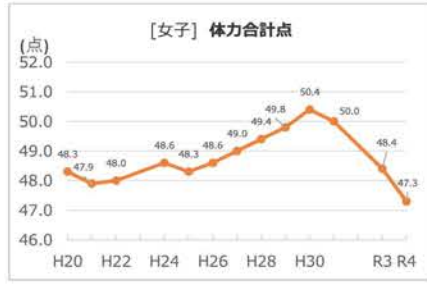
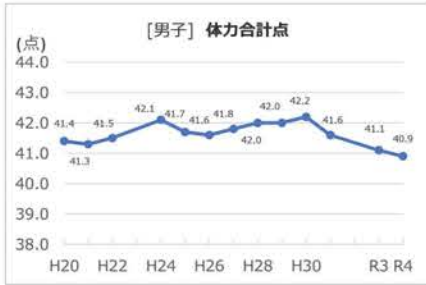
★2022年7月14日
学習活動：プログラミングを行う。
児童の個別の実態に合わせ、6つのレベルから選んで挑戦した。ケーキを買って障害物を避けながらゴールのお城を目指した。
レベル1：ブロック2個（前進）→レベル2：ブロック4個（前進・右折）
→レベル3：ブロック5個（前進・右折・左折）→レベル4：ブロック4個（前進・右折・左折・反復）など。

大学と附属が力を合わせて、子どもたちの学びを応援しています！

特集 スポーツ

省庁・附属学校・PTAの取組み

(中学校)



【出典】スポーツ庁令和四年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の調査結果の概要

●学校体育の充実
 学習指導要領では、小学校から高等学校までを見通した指導内容の系統化や明確化を図りつつ、体育については、「する・みる・支える・知る」といったスポーツとの多様な関わり方を楽しむことができるよう

●幼児期における運動習慣の形成
 幼児期の運動習慣作りは、子どもの体力向上はもとより、成人以降のスポーツ習慣や高年齢以降の健康の保持にも大きな影響を及ぼします。そのため、スポーツ庁では、家庭や学校を始め、地域において、幼児及び小学校児童を対象に、その発達段階に応じた運動習慣の形成に取り組むことにより、子どもの体力向上を目指し、さらに、生涯に渡って運動やスポーツを継続する人が増えるよう取り組んでいます。

人間が発達・成長し、創造的な活動を行っていくためには、健康・体力の保持・増進が重要です。一方で、「令和四年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」によると、同年度は元年度調査から連続して小・中学生の男女ともに体力合計点が低下しました。低下の主な要因としては、①一週間の総運動時間が四二〇分以上の児童生徒の割合は増加しているものの、元年度の水準には至っていないこと、②肥満である児童生徒が増加し

省庁



スポーツ庁 地域スポーツ課 課長補佐 鴨志田 暁弘氏

③朝食欠食、睡眠不足、スクリーンタイム増加など、生活習慣に変化が生じていることのほか、新型コロナウイルス感染症の影響により、マスク着用中の激しい運動の自粛なども考えられます。そこで、スポーツ庁では、子どもの体力を向上させるため、子どもの発達・成長段階に応じて、以下のような取組みを行っていますので、ご協力のほどよろしく申し上げます。

令和の子どもの体力向上に向けて



子供たちの未来のために

部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行
 少子化が進む中でも、将来に渡り生徒がスポーツ活動に継続して親しむ機会を確保し、生徒のニーズに応じた多様な豊かな活動を実現するためには、「地域の子どもたちは、地域で育てる」という意識の下、地域のスポーツ資源を最大限活用しながら部活動改革を推進することが必要不可欠です。

昨年十二月に策定したガイドラインでは、令和五年度から七年度までを「改革推進期間」として位置づけ、休日の部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行について、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現を目指すこととしています。スポーツ庁としても、実証事業の着実な実施や、先進事例の周知を行うとともに、部活動改革ポータルサイトの充実など、必要な施策を総合的・一体的に講じていきます。

附属学校

初心者躍動 サッカー部の挑戦

京都教育大学附属桃山中学校

本校の部活動は公立中学校よりも活動時間が短く、平日は毎日1時間程度の4日間、休日は3時間の1日という練習時間で取り組んでいます。どの部も部員の半数以上は初心者という状況です。部活動を目的に入学してくる生徒はほとんどいません。

その中で経験者が比較的多いのがサッカー部です。しかし、練習がしんどいという評判で、部員数は各学年7～8人程度の小さな部です。その小さな部が大きな目標を立て、「京都で他のチームがやっていないことをやろう」という挑戦を続けています。それは、ボールコントロールの練習を徹底することです。とても地味な練習に毎日多くの時間を費やします。そして、サインプレーを何度も繰り返し、痛さや怖さに負けないヘディング練習を積み重ねます。休日には、3～4人制のミニゲームを2時間近く続けます。夏の大会前には、暑さに勝つためにジャージを着て練習に取り組みました。特別なことができるわけでは

ないものの徹底して取り組むことで、それがチームの強みとなり、結果が伴うことでいっそう自信を持って徹底できる、それが仲間の結びつきも強めてきました。

- 近年の中体連実績は次の通りです。
- 令和4年度 京都市夏季大会 第3位
- 京都府大会ベスト8
- 令和4年度 京都市新人大会 準優勝
- 令和5年度 京都市春季大会 準優勝
- 令和5年度 京都市夏季大会 第3位
- 京都府大会ベスト8
- 令和5年度 京都市新人大会 第3位



凡事を徹底し、やれることは小さなことでも全てやる。「努力は人を裏切らない」身をもって学んだことが、これからの彼らの人生を支えていくことと思います。

特集解説

編集委員 羌 叡應 (全附P連 広報委員長)

来年、パリで開催されるオリンピック、パラリンピックに向け、本年も様々な世界的スポーツイベントが各メディアで取り上げられています。そこで本号では、世界の動向を機敏に捉えた特集とするため、スポーツに焦点を当てました。

特集としたスポーツ庁、附属学校、PTAの各取組みは、それぞれの立場でスポーツについて考えるものです。スポーツ庁からは、子どもに関わる現代的な問題についての総論

をご寄稿いただきました。また附属学校からは、京都教育大学附属桃山中学校の限られた条件や時間の中で結果を残す工夫についてご紹介しました。そしてPTAからは、神戸大学附属中等教育学校PTAの新しい保護者間交流を探る試みについてご紹介しました。

スポーツに関する様々な取組みについて、競技から離れた視点で見つめ直すことで、新たな気づきの機会になればと考えています。

新しいスポーツ交流のあり方を探る試み

神戸大学附属中等教育学校PTA

コロナ禍により途絶えた保護者間交流をスポーツを通じて新しい形で図ることができないか。現在、神戸大学附属中等教育学校PTAは、この試みに挑戦しています。

学校の運動場や体育館の夜間休日使用は、教職員の働き方改革を阻害するおそれがあるため、市営の安価で比較的確保が容易な体育

館の使用を想定し、競技も性別の区別なく、「ONE TEAM」として活動することで、子どもたちの成長にとって必要な情報交換の場を設けようと努めています。またPTA会長である児島幸治氏は、神戸大学附属の幼稚園や特別支援学校のPTA会長とも意見交換を行うなど、この働きかけを通じて横断的なPTA間の交流が芽生えています。

新しい保護者間交流を図ろうと努めるPTAの試みに今後期待したいと思います。

PTA



名古屋大学教育学部附属
附属中学校・高等学校
は、中学校と高等学校
が併設された中高一貫



名古屋大学教育学部附属
中・高等学校長
柴田 好章 氏

主管校紹介 名古屋大学教育学部附属中・高等学校

全附P連 絵画コンクール2023

今年度の絵画コンクールでは「ウキウキワクワクするもの
皆教えて!!」をテーマに開催されました。園児・児童・生徒
の皆さんが真剣に取り組んでくれ応募作品の総数はなんと
1,859点を数えました。2次審査は主管校である名古屋大学
教育学部附属中・高等学校で行われ、審査員の先生方は1枚
1枚手に取り、子どもたちの作品に真剣に見入っていました。
大好きなことを思うがままに描かれている作品はどれも素晴
らしく力強くそして何よりウキウキワクワク感が溢れ出てお
り大変嬉しく思いました。

教育校です。1学年あた
り、中学校は2クラス80
名、高等学校は3クラス
120名であり、合計15
クラスの比較的規模の小
さな学校です。名古屋大
学のメインキャンパスで
ある東山キャンパスの中
に位置し、地下鉄「名古屋
大学」駅より徒歩5分
程度と、交通の便にも恵
まれています。

勇気ある知識人を育む、 大学との連携

名古屋大学教育学部附属
学校・高等学校となりま
した。昭和30年に名古屋
市に移転し、昭和38年に
名古屋大学構内に移転し
現在に至ります。

創設以来、個性と自由
を大切にする校風を大切
にしてきました。こうし
た伝統の上で、時代を先
取りする教育実践に取り
組み、教育界をリードし
てきました。

主管校所感



名古屋大学教育学部附属
中・高等学校 PTA会長
坂田 美郁紀 氏

今年度の絵画コンクール
を「ウキウキワクワクするも
の皆教えて!!」をテーマに本
校で主管をさせていただきました。
子どもたちが心から好き
と言えるものそして身体の
芯から湧き出てくるウキウ
キワクワクするものを思
いっきり自由に描いてほし
い。そして思いっきり今を楽

しんでほしいという願いが
このタイトルに込められて
います。子どもたちの作品
は、どれをとっても力強く、
そして様々な表現力、訴える
力、感受性の高い描写力など
を目の当たりにして、作品か
ら湧き出てくるウキウキワ
クワク感や笑顔が自然と感
じとれ、本当に楽しいコン
クールになりました。

審査員講評

自分に向き合うことで 生まれる「表現」



桜花学園大学大学院
教授
浅野 卓司 氏

名大附属高OB、教師・保育士の養成校教員として「第19回全附P連絵画コンクール2023」の審査に関わらせていただきました。私は仕事柄、学生や現場の先生方、子どもの造形に接する機会がありますが、多様な感性を通して表現される世界は、年齢を問わず理屈抜きに良いなあ！といつも感じます。

生活の中にある小さな気づきや感動あるいは未来への希望に、一人ひとりの美的なこだわりが結びつくと表現の種が生まれますね。絵画コンクール2023のどの作品にも、こうした思いやこだわりを感じることができました。作品に現れる形や色は、一生の中でもかけがえのない痕跡だと思えます。自分の気持ちに向き合うことで生まれる表現の世界の面白さをこれからももっと楽しんでください。

感じた 出会った 絵に込めた素直な気持ち



愛知教育大学
名誉教授
宇納 一公 氏

全国から応募のあった作品は、表現力豊かな魅力的なものが多く、その中から優秀作品を選び出すのに悩みました。

審査するにあたり、絵画作品の中から児童生徒の素直な心を読み取りたいと心がけ、個々のイメージネーションをどのように働かせて描かれたのか、作品テーマや制作意図なども参考に作品を絞っていきました。

色鉛筆で表面が光るほど丹精込めて何度も塗り重ねて描かれた密度の高い人物画や画用紙の白を生かした細密な鉛筆画、絵の具の鮮やかな色と線で日常生活の楽しい世界を表現した風景画など、審査を終えて心揺さぶられる様々な表情の作品群に感心させられた一日でした。

審査を終えて 子どもたちの思いを感じる時間



一般社団法人
全国国立大学附属学校
PTA連合会 会長
桑名 良尚

1次審査を終えた500点ほどの作品を見させていただきました。「ウキウキワクワクするもの皆教えて!!」を課題に、子どもたちの夢や好きなことや未来に対する自分のこだわりなどの思い、それを絵として表現しようとする思いの強さを感じました。

コロナ禍では開催されなかった花火大会のシーン、スイミング、野球、サッカー、ラグビーなどのスポーツ、家族や友人と過ごした夏休みの思い出などカラフルな色彩で力いっぱい表現されていました。また、そんな作品の中には、今を一所懸命に生きる強い思いや、これから訪れる未来への期待や希望をも感じさせるような、それぞれの個性的かつ豊かなイメージで描かれていました。

会場で審査している自分がウキウキワクワクを感じる瞬間でした。

絵画は子どもの心を写す鏡



特別支援(美術専攻)学校
教諭
春日井 誠 氏

たくさんの作品の中から、審査員の先生方と協力して受賞作を選定するという、私にとって緊張感を感じる初めての経験になりました。床にきれいに部門ごとに並べられた作品を真剣に見ながら、「これは描いた子の気持ちが溢れ出ていて良いね!」など、関係者と様々な言葉を交わしながら、1点1点その世界感を味わうように審査していきました。

審査の過程で、できる限り子ども本人の情動や感動、オリジナルな創意工夫が感じられるものを選定するように心掛けました。見れば見るだけ、それぞれの作品の良さが見えてきて、賞を選ぶという矛盾も感じられました。しかしながら、「作品(絵画)は子どもたちの心を写す鏡」であり、その世界感や魅力に引き込まれる有り難い体験となりました。このような機会を与えていただいた皆様に感謝申し上げます。

全附P連
**絵画コンクール
 2023**
 「ウキウキワクワクするもの皆教えて!!」
入賞作品

学校園優秀賞

幼稚園部門
 小学校部門
 中学校・高等学校部門
 特別支援部門

長崎大学教育学部附属幼稚園
 福岡教育大学附属小倉小学校
 福岡教育大学附属小倉中学校
 筑波大学附属大塚特別支援学校



名古屋高 佐野 一喜
 図書館



鳴門教育小 三好 陽
 最強スーパーボディ!
 大きな口でいかくするカバ



福岡教育小倉中
 新田 ころこ



岡山中
 竹内 蒼一郎



京都教育桃山中
 中川 瑞希



千葉小 小笠原 拓海
 ウォーター・サルート



千葉幼 篠塚 うた
 うちゅうのとり



山形中
 齋藤 葉音



山形特支
 山本 鏡介



埼玉特支
 森 千夏



筑波大塚特支 白土 虎太郎
 さいた、さいた、花火がさいた!



鹿児島小 新田 英佑
 みんなのワクワクを乗せて出発だ!!



長崎幼
 潮崎 瑛斗



大阪教育池田小
 高田 博斗



埼玉特支 高窪 莉一



神戸小 安村 太希
 深海のたび



宮崎小特支 谷口 翔規
 海中パーティータイム

特別賞



福岡教育福岡小
 川村 莉愛瑠



京都教育桃山中
 木村 百華



名古屋中
 今川 ころこ



香川坂出中
 高嶋 蒼真



山形中 小笠原 陽菜
 大花火大会2023



横浜国立鎌倉小 勝田 堃々花
 つながる



北海道教育旭川小 山本 桔平
 てつぼうとこっき



茨城幼 宮本 大生
 はじめてのスライダー

ウキウキワクワク賞



千葉幼 小笠原 瑚乃



鳴門教育幼 大本 啓太



香川高松幼 岡本 夏月



宮城教育幼 瀬尾 太袖



長崎幼 金本 朔



鳴門教育幼 原田 あかり



京都教育幼 吉川 愛梨紗



鳴門教育小 谷口 詩歩



京都教育幼 山本 惺愛



福岡教育福岡小 絵島 煌貴



愛知教育名古屋小 高味 すりあ



大阪教育池田小 松永 朔歩



宮城教育小 柴田 沙羅



福島小 遠藤光雅



滋賀小 畑田 しずく



福岡教育福岡小 古木 里彩



大阪教育池田小 佐味 玲奈



茨城小 深澤 賢人



香川坂出小 横田 雅季



大阪教育平野小 宮武 美翔



福岡教育福岡小 清水 愛理



お茶の水小 武藤 清香



福岡教育福岡小 古木 里彩



大阪教育池田小 佐味 玲奈



福岡教育小倉小 大八木 健史



茨城小 川越 健太



京都教育桃山小 井門 孝徳



鹿児島小 東 紗穂



山形小 渡邊 希実



宇都宮小 高瀬 穂



広島三原小 谷 こはる



大阪教育池田小 大坪 泰仁



秋田小 川口 雅桜



山形中 長谷川 真友



鹿児島中 下坂元 凛音



山形中 小川 永美



奈良女小 山縣 侑生



山形中 笹生 大河



京都教育特支 山口 祐佳



横浜特支 上澤 彩世



群馬特支 青山 弘幸



福岡教育福岡小 (特支) 平野 宗一郎



宮城教育特支 西脇 杏珠



奈良女小 山縣 侑生



山形中 笹生 大河

カンガルー賞



埼玉幼 橋本 滯



香川幼 藤谷 実永



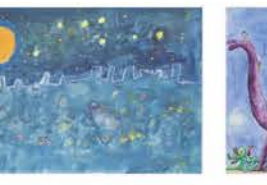
愛媛幼 堀川 音羽



長崎幼 浦田 悠理菜



茨城小 奥田 奏生



千葉小 山口 結太郎



千葉小 中島 望



山梨小 佐々木 凜



香川高松小 賀来 奏介



京都教育桃山小 山本 空愛



香川高松小 岡崎 進志郎



福岡教育福岡小 古賀 櫻桂



長崎小 本多 美空



鹿児島小 平山 陽恒



お茶の水小 安坂 亜紗



福井義務 (前期) 坪川 侑翔



神戸小 上野 希



鳴門教育小 大藤 朋紀



福岡教育福岡小 田中 亜依



東京学芸国際中 (前期) 横川 楓



名古屋中 中野 帆高



福岡教育小倉中 立花 春樹



福岡教育小倉中 藤永 のぞみ



金沢幼 内田 啓太



群馬特支 引田 花凜



群馬特支 桐木 翔伍



群馬特支 石井 蒼一郎



筑波大塚特支 丹呉 陸



筑波大塚特支 新島 奏



筑波大塚特支 松本 侑大

附属学校・PTA・地区会 活動紹介



近附P連交流事業 講演会「学ぶことは生きること」 統括責任者 羌 観應 氏

近畿国立大学附属学校PTA連合会(近附P連)の令和5年度交流事業を11月25日(土)に大阪教育大学天王寺キャンパスで開催いたしました。本年度は、「ルワンダの教育を考える会」の理事長である永遠瑠マリールイズ氏を講師にお招きし、「学ぶことは生きること ~こどもたちの生きる力を育む学びとは~」をテーマにご講演いただきました。

まず、ご自身の生い立ちや、青年海外協力隊のカウンターパートナーとしての初来日、そしてルワンダ帰国直後に勃発した内戦についてお話いただきました。3人のお子様を連

れ、アフリカ史上最悪といわれるジェノサイド(大量虐殺)からいかに逃れ、再来日の機会に連なったかが熱意を持って語られました。参加者は、壇上の笑顔の女性が語るその壮絶な体験に少しでも寄り添おうと、真剣な眼差しで耳を傾け、その思いを共有しようと努めているかのようでした。

学ぶことの大切さ、学ぶことへの感謝、そして学ぶことで生み出される絆。子どもたちがこれから不確実な世界を生き抜くために、学ぶ力や生きる力の大切さを伝え、命の尊さを見つめ直す時間となりました。

書籍の刊行について

北海道教育大学附属函館中学校 副校長 黒田 諭 氏



2冊の書籍を刊行しました。「1人1台端末活用のBYOD/BYAD入門」は、デジタル教育の推進に向けたガイドブックであり、「ワークブック 地域課題解決型探究学習&ICTの基礎基本」は、生徒が現実社会に目を向け、社会貢献しながら学ぶ姿勢を育むための教材です。

働き方改革

群馬大学共同教育学部附属中学校 校長 上原 永次 氏



「勤務時間や業務の見直し」と「教育活動の質の向上」の両面を視野に、学校改革を大きく推し進めています。特にICTの活用やカリキュラムの見直しを中心とした働き方改革により、質の高い教育の提供と働きがいのある職場づくりを同時に着実に進めています。

書籍の刊行について

鳥取大学附属特別支援学校 副校長 安本 理恵 氏



5月に川井田祥子監修、鳥取大学附属特別支援学校著「自分づくりがひらく未来 子どもの願いを支える教育課程の創造」が、クリエイツかもがわ社から刊行されました。小学部から専攻科までの14年間、生活を楽しむ日々の取り組みが、本書に集約されています。

ランドセルと内履きの自由化!! ~多様性の推進~

富山大学教育学部附属小学校 PTA会長 米田 篤史 氏



60年以上前から低学年で指定する「黄色いランドセル」を指定靴から解除し、学校とPTAで検討を重ねてルールを作り、児童がより快適な学校生活が送れるように選択ができるようにしました。同様に、個人差のある児童の足に合わせた内履きの選択も可能にしました。

学校をみんなで綺麗に! ~親子奉仕作業~

静岡大学教育学部附属浜松中学校 PTA会長 二村 美里 氏



「親子奉仕作業」という学校を親子で清掃する日を設け、普段お世話になっている学校に感謝の気持ちを伝える活動を続けています。学校の清掃はもちろん、作業を通じて、親子だけでなく会員同士のコミュニケーションを図ろうとの趣旨で開催されています。

附幼ワクワクフェスティバル 夕涼み花火大会

北海道教育大学附属旭川幼稚園 副園長 野上 大輔 氏



PTAと後援会の共催により、コロナ禍の中で、様々な活動がストップしていても、みんなが楽しめるイベントはできないかと企画されました。子供達や保護者を含め200名を超える人数で見上げた夜空ときれいな花火はとても印象深いものだったようです。

アシストガイドで行く 修学旅行

香川大学教育学部附属特別支援学校 教諭 塩田 友亮 氏



紙媒体による「修学旅行のしおり」は作成せず、自分のスマートフォンで、本校も開発協力し、ソフトバンク社が制作した「アシストガイド」というアプリを活用しました。これからの時代、卒業後の生活でもスマートフォンを使えるように、将来を考えたICT活用の重要性を再認識しました。

災害時における情報の信頼性の見極め方を学ぶ「情報防災訓練」

大阪教育大学附属池田中学校 副校長 辻本 堅二 氏



災害が発生した際に、SNS(交流サイト)上で発信されるさまざまな情報の見極め方を学ぶ「情報防災訓練」を実施しました。生徒たちは、グループワークを通じて他者との意見の違いに気づき、普段の生活における情報の取扱い方についても認識を深めました。

「思うは招く!!」 ロケット教室

琉球大学教育学部附属中学校 PTA副会長 具志 あい 氏



作ったロケットを打ち上げる体験を通じて、子どもたちが自身の可能性の広がりを実感できるよう企画しました。ロケットを作る中で教えあい、助けあう体験、作ったロケットが飛ぶことで「自分にもできる」という成功体験を味わうことのできる教室です。

なつまつり

愛知教育大学附属幼稚園 PTA会長 山下 志保 氏



今年も7月に、4年ぶりとなる制限のない「なつまつり」を開催し、2つのことに挑戦しました。「SDGsを意識した取り組み」と「共に作り上げる夏祭り」です。飾りや制作物を次年度以降にも使用できるよう工夫し、準備から園児と保護者で関わっていくことで、素敵な夏の思い出になりました。

食育プログラム 「食べて学ぶSDGs」

大阪教育大学附属池田中学校 副校長 辻本 堅二 氏



学校と企業が力を合わせ、社会とのつながりを重視しながら、「人々の協力によって持続可能な社会が発展し、環境へ影響を与える。」をテーマに、現実の社会との関わりの中で、子どもの豊かな学びの実現につながる探究的な学習のひとつとして実施しました。

心に寄りそう

~かける言葉をポジティブに~ 埼玉大学教育学部附属中学校 PTA会長 田中 亜弓 氏



優しさが広がり心に寄りそう活動を目指しています。子どもたちは、心に疲れがたまったら新しい居場所「とまり木」に来て羽を休めることができます。そんな子どもたちが羽を休めて、また飛び立っていけるよう生徒同士、先生方、保護者みんなで見守る活動に取り組んでいます。

「能・狂言ってなあに!!」~みんなでふれ合おう、日本の伝統文化~

京都教育大学附属京都小中学校 育友会会長 上野 剛史 氏



毎年、生徒、保護者、教職員にむけた文化行事を開催しています。令和5年度は、能楽堂京都観世会館にて、能楽鑑賞と体験を行いました。映像や書物だけではなく、生で観て肌で感じることは感動の大きさも違い、記憶にも鮮明に残るので、価値のある文化行事になりました。

キャンパス クリーン大作戦

大阪教育大学附属池田中学校 PTA会長 奥村 淳 氏



平成13年に附属池田小学校で起きた事件を受け、犯罪防止のため見通しの良い学校づくりを目的として始まった活動です。大きく変化する社会の中で本質を守るため、事件対応時の小中高連携の大切さをPTAでも向上させるべく、連携行事として続いています。

詳しくは全附連ホームページでご紹介しています!

本頁に掲載の附属学校およびPTAの取り組みについては、全附連ホームページ「附属学校・PTA活動紹介」で詳しくご紹介しています。

また年度を通じて、附属学校やPTA関係者の皆様に活動の情報提供をお願いしています。

全附P連は、ご提供いただいた情報の発信に努め、今後もその実践的な活動を広く周知していきます。皆様からの情報提供をお待ちしています!



附属学校・PTA活動紹介

全附P連 事業告知

いじめ防止対策動画紹介

昨今、全国各地でいじめの重大事案が発生しており、附属学校においてもいじめ問題は常に取り組むべき課題のひとつです。全附P連では、附属学校の保護者や先生方がいじめに對する理解や予防のあり方を学ぶための支援を行うことで、いじめで苦しむ子どもたちがいない学校づくりに貢献していきたくて考えています。

具体的ないじめ防止対策のひとつである、いじめに関するセミナー動画を製作し、全附連PTA連合会のホームページで紹介しています。それぞれの学校が、これらの動画を使っていじめに関する講演を開催し、グループディスカッションを行うことで相互理解を深め、いじめに對するPTAの取り組みを積極的に進めたいという意欲をよりあげていただきますように企画を練り準備を進めています。

開催日が決定いたしましたらご参加のほど、よろしくお願いたします！



いじめ防止対策

全附P連 動画配信プロジェクト始動！ 「PTA未来への架け橋プロジェクト」

急激に変化する時代、学校教育のあり方が社会の課題として問われる中、これからの学校教育を支援する新しい形のPTAのあり方について模索する風潮が高まっています。そこで全附P連では「令和の日本型PTA」を指標とし、新しい時代のPTAのあり方を考えるため「PTA未来への架け橋プロジェクト」を発進させました！

これまでの全附P連やPTA活動の歴史を踏まえた新しい時代のPTAのあり方を考えるための動画を作成し、配信します。「新しい時代の日本型PTA」とは？ 他者と関わらなくなっている時代だからこそ、PTAにできることは何か？ 詳しくは、各学校へのご案内、ホームページ、SNSで今後お伝えします。お楽しみに！

幼稚園・特別支援保護者交流会



保護者の皆様と気兼ねなく話し合う中で、「新たな気づき」を共有し、「わが子との関わり」における意欲をよりあげていただきますように企画を練り準備を進めています。

開催日が決定いたしましたらご参加のほど、よろしくお願いたします！

あいサポート運動

多様なハンディキャップの特性を理解し、どのような手助けが必要かを知っていれば、手を差し伸べる勇気が出ます。あいサポーター研修は、その知識と勇気を皆様身に付けていただく研修です。

あいサポート研修について詳しくはこちらで→



作文・絵作文コンクール2023

先生へありがたい気持ちを伝える作文、絵作文を募集します。先生へ伝えたいあなたの大切な思いを表現してください。多くのご応募を心からお待ちしています。

テーマ 「せんせい、ありがとう！」

応募規定 作文の部（1600字）
絵作文の部（400字）

賞 会長賞 1名
優秀賞 若干名
特別賞 数校

審査員長 くすのき しげのり氏
(児童文学作家)

結果発表 3月1日（金）頃を予定



作文・絵作文コンクール



2022年度会長賞受賞作品



全附連ホームページに掲載の「応募要項」をご確認ください。



みんなのオンライン文化祭HP

オンライン上で、いつでもどこでも視聴でき、発表できる特設ホームページ「第4回みんながつながるオンライン文化祭」の動画作品を大募集中です！QRコードを読み取り、全国の附属学校を舞台とした素晴らしい取り組みをお伝えください。オンライン文化祭を通じて、みんなでつながりましょう！

第4回全附P連 みんながつながる オンライン文化祭 2023

発行所

全国国立大学附属学校連盟
 (一社)全国国立大学附属学校PTA連合会
 〒113-0033 東京都文京区本郷4-16-6
 文京区本郷四丁目ビル
 天翔オフィス後楽園9階905号室
 TEL:03-5990-9444
 FAX:03-5990-9445
 E-mail:jimukyoku@zenfuren.org
 印刷:株式会社インテックス

編集後記
 附属だよりの編集に初めて関わった方が、まさか驚くほどの発行部数や配送先の多さです。毎号10万部近くの誌面が印刷され、全国の附属学校だけでなく大学や教育委員会、省庁や関係団体などにお届けされています。そして編集の判断根拠となるのが、全附連の活動理念です。特に近年では、平成29年有識者会議の報告に對する危機感から改革の実践をより分かりやすくお伝えしようという思いが、本誌制作に協力いただきました皆様、心より感謝いたします。(莞 敬應)

編集委員
 全附連盟
 情報広報委員会代表
 齊藤 誠(北海道教育旭川小)
 全附P連
 副会長
 二村 美里(静岡浜松中)
 齋藤 伸(福島特支)
 広報委員長
 莞 敬應(神戸小)
 広報副委員長
 松井 聖治
 (北海道教育釧路義務後期)
 藤井 大介(愛媛中)

第15回全国大会

令和6年度「全附P連PTA研修会
 第15回全国大会」を開催します。
 皆様のご参加をお待ちしています！
 日程 令和6年9月27日（金）
 ~28日（土）
 場所 リーガロイヤルホテル東京
 〒169-8613 東京都新宿区戸塚町1丁目104-19

全国国立大学附属学校園の幼児・児童・生徒の保護者の皆様へ

この保険は(一社)全国国立大学附属学校PTA連合会の団体保険です。

2023年度 カンガルー保険のご案内

中途加入受付中

ただ今募集中!

詳細につきましては、パンフレットをご覧ください。

団体総合生活保険

任意加入制度

24時間補償

保険期間 2023年4月1日午後4時から2024年4月1日午後4時まで1年間

加入対象者 ①全国国立大学附属学校園に在籍の幼児・児童・生徒
②本制度にご加入いただいた上記①の兄弟で、公・私立の幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校に通われている幼児・児童・生徒(ご加入時に満3歳以上から満18歳以下の方に限ります。)

加入手続き パンフレット差込の加入依頼書にご記入・ご捺印(銀行届出印)のうえ、返信用封筒にてご返送ください。

申込締切日 随時ご加入いただけます。(お手続きの翌月1日(午後4時)からの補償開始となります。)

※パンフレットのご請求、保険料につきましては、取扱代理店までお問い合わせください。

【引受保険会社】 東京海上日動火災保険株式会社
(担当課)公務部第二文教公務課 〒102-8014 東京都千代田区三番町6-4 TEL:03-3515-4133 FAX:03-3515-4132 2023年3月作成 22TC-102967

全員加入制度 ※個人での加入はできません。

1 園児・児童・生徒、教職員の皆さまのケガなどを補償する
園児・児童・生徒・教職員総合補償制度
(学校契約団体傷害保険、賠償責任保険PTA特約)

2 園児・児童・生徒、教職員の皆さまを犯罪事故からお守りする
犯罪被害事故見舞補償制度
(傷害総合保険)

3 PTA活動に参加中のご両親・教職員の皆さまのケガや賠償事故を補償する
PTA活動総合補償制度
(普通傷害保険PTA団体傷害特約、賠償責任保険PTA管理者特約、生産物特約)

保険期間 2023年6月1日午後4時から2024年6月1日午後4時まで

※「カンガルー保険(全員加入制度)」は全国国立大学附属学校PTA連合会を保険契約者、損害保険ジャパン株式会社を引受保険会社とし、学校契約団体傷害保険、傷害総合保険、PTA団体傷害保険、賠償責任保険(PTA特約、PTA管理者特約、生産物特約)をそれぞれ組み合わせて加入する補償制度のペットネームです。
※この広告は概要を説明したものと異なります。詳細はパンフレットをご覧ください。

【引受保険会社】 損害保険ジャパン株式会社
団体・公務開発部 第三課 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL:03-3349-5408 FAX:03-6388-0162 SJ23-00767 2023年4月20日

カンガルー保険・取扱代理店のお問合せ先

《北海道・東北・関東・北信越・四国地区》
株式会社 第一成和事務所
東京都中央区日本橋久松町11-6 ☎ 0120-100-492
日本橋TSビル 8F

《東海・近畿・中国・九州地区》
海上商事 株式会社
東京都渋谷区代々木2-11-15 ☎ 0120-745-748
新宿東京海上日動ビルディング

この広告は団体総合生活保険の概要についてご紹介したものです。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、代理店までお問い合わせください。

全国の国立大学附属学校

令和5年12月現在

北信越地区

- 新潟大学附属
 - ・幼稚園 ・新潟小学校 ・新潟中学校
 - ・長岡小学校 ・長岡中学校 ・特別支援学校
- 上越教育大学附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校
- 富山大学教育学部附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校
- 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・高等学校
 - ・特別支援学校
- 福井大学教育学部附属
 - ・幼稚園 ・義務教育学校 ・特別支援学校
- 信州大学教育学部附属
 - ・幼稚園 ・長野小学校 ・長野中学校
 - ・松本小学校 ・松本中学校 ・特別支援学校

近畿地区

- 滋賀大学教育学部附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校
- 京都教育大学附属
 - ・幼稚園 ・京都小中学校
 - ・桃山小学校 ・桃山中学校 ・高等学校
 - ・特別支援学校
- 大阪教育大学附属
 - ・幼稚園 ・天王寺小学校 ・天王寺中学校
 - ・高等学校天王寺校舎 ・平野小学校
 - ・平野中学校 ・高等学校平野校舎
 - ・池田小学校 ・池田中学校
 - ・高等学校池田校舎 ・特別支援学校
- 神戸大学附属
 - ・幼稚園 ・小学校
 - ・中等教育学校 ・特別支援学校
- 兵庫教育大学附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校
- 奈良女子大学附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中等教育学校
- 奈良教育大学附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校
- 和歌山大学教育学部附属
 - ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校

北海道地区

- 北海道教育大学附属
 - ・札幌小学校 ・札幌中学校 ・函館幼稚園
 - ・函館小学校 ・函館中学校 ・特別支援学校
 - ・旭川幼稚園 ・旭川小学校 ・旭川中学校
 - ・釧路義務教育学校

中国地区

- 鳥取大学附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校
- 島根大学教育学部附属
 - ・幼稚園 ・義務教育学校
- 岡山大学教育学部附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校
- 広島大学附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・高等学校
 - ・東雲小学校 ・東雲中学校 ・三原幼稚園
 - ・三原小学校 ・三原中学校
 - ・福山中 ・高等学校
- 山口大学教育学部附属
 - ・幼稚園 ・山口小学校 ・山口中学校
 - ・光小学校 ・光中学校 ・特別支援学校

東北地区

- 弘前大学教育学部附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校
- 岩手大学教育学部附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校
- 秋田大学教育文化学部附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校
- 宮城教育大学附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校
- 山形大学附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校
- 福島大学附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校

関東地区

- 茨城大学教育学部附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校
- 宇都宮大学共同教育学部附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校
- 群馬大学共同教育学部附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校
- 埼玉大学教育学部附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校
- 千葉大学教育学部附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校
- 筑波大学附属
 - ・小学校 ・中学校 ・高等学校
 - ・駒場中 ・高等学校 ・坂戸高等学校
 - ・大塚特別支援学校 ・久里浜特別支援学校
- お茶の水女子大学附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・高等学校
- 東京学芸大学附属
 - ・幼稚園 (小金井園舎、竹早園舎) ・世田谷小学校
 - ・世田谷中学校 ・小金井小学校
 - ・小金井中学校 ・大泉小学校 ・竹早小学校
 - ・竹早中学校 ・国際中等教育学校
 - ・高等学校 ・特別支援学校
- 東京大学教育学部附属
 - ・中等教育学校
- 東京藝術大学音楽学部附属
 - ・音楽高等学校
- 東京工業大学附属
 - ・科学技術高等学校
- 横浜国立大学教育学部附属
 - ・鎌倉小学校 ・鎌倉中学校 ・横浜小学校
 - ・横浜中学校 ・特別支援学校
- 山梨大学教育学部附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校

東海地区

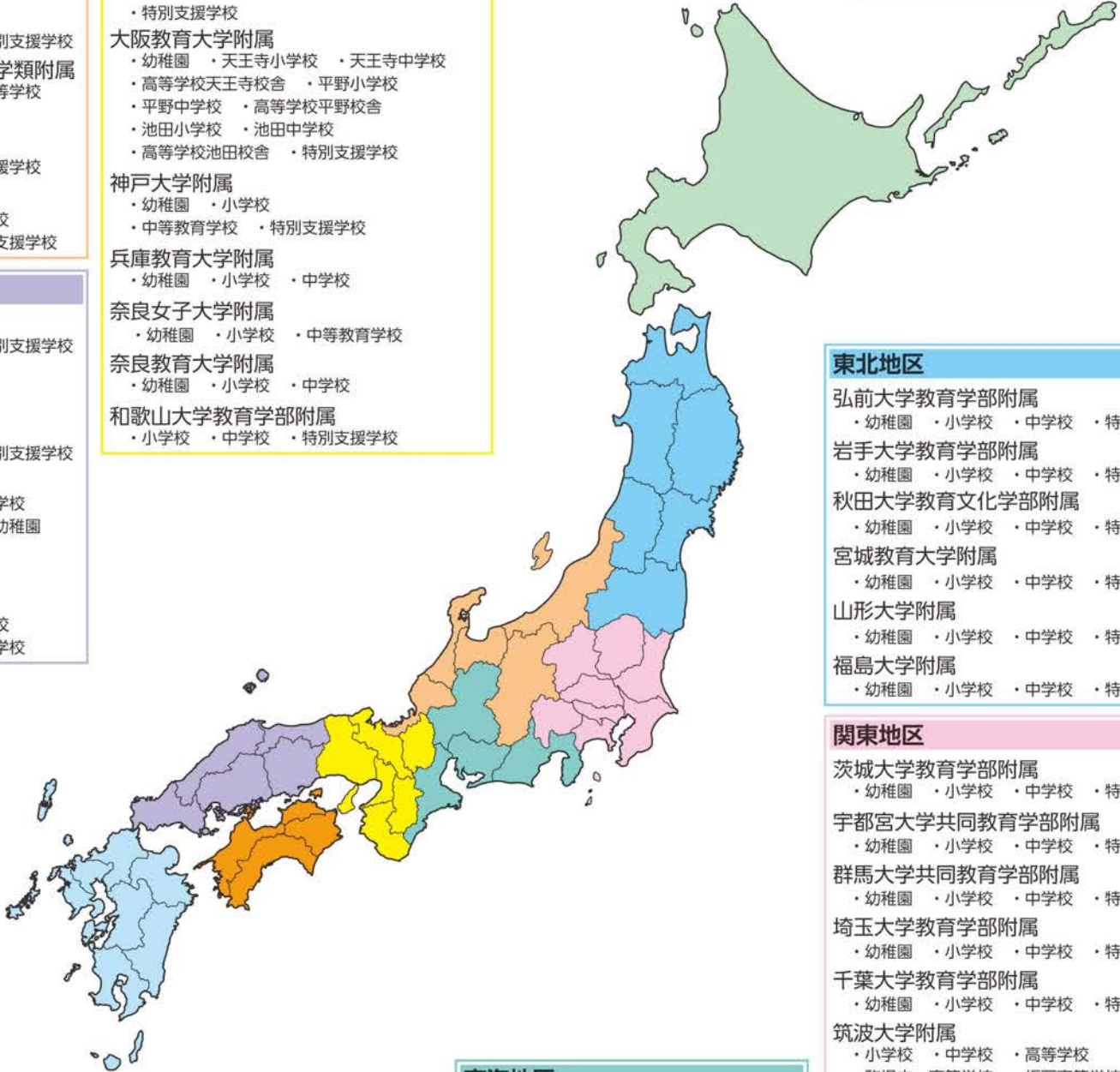
- 岐阜大学教育学部附属
 - ・小中学校
- 静岡大学教育学部附属
 - ・幼稚園 ・静岡小学校 ・静岡中学校
 - ・浜松小学校 ・浜松中学校 ・島田中学校
 - ・特別支援学校
- 愛知教育大学附属
 - ・幼稚園 ・名古屋小学校 ・名古屋中学校
 - ・岡崎小学校 ・岡崎中学校 ・高等学校
 - ・特別支援学校
- 名古屋大学教育学部附属
 - ・中 ・高等学校
- 三重大学教育学部附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校
 - ・特別支援学校

特別会員

- 筑波大学附属
 - ・桐が丘特別支援学校 ・聴覚特別支援学校
 - ・視覚特別支援学校

四国地区

- 鳴門教育大学附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校
- 香川大学教育学部附属
 - ・幼稚園 ・幼稚園高松園舎
 - ・高松小学校 ・高松中学校 ・坂出小学校
 - ・坂出中学校 ・特別支援学校
- 愛媛大学教育学部附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校
 - ・特別支援学校
- 愛媛大学附属
 - ・高等学校
- 高知大学教育学部附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校



全国の国立大学附属学校のホームページを見てみよう！



国立大学附属学校一覧

九州地区

- 福岡教育大学附属
 - ・幼稚園 ・福岡小学校 ・福岡中学校
 - ・小倉小学校 ・小倉中学校 ・久留米小学校
 - ・久留米中学校
- 佐賀大学教育学部附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校
- 長崎大学教育学部附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校
- 熊本大学教育学部附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校
- 大分大学教育学部附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校
- 宮崎大学教育学部附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校
- 鹿児島大学教育学部附属
 - ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 ・特別支援学校
- 琉球大学教育学部附属
 - ・小学校 ・中学校

全附P連とは？

「全附P連」は、「一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会」の略称です。この組織は、国立大学附属学校の保護者と教職員の協力組織として設立され、国立大学附属学校のPTAを支援し、社会教育と家庭教育の充実、附属学校間の交流を促進し、国の教育全般の発展に貢献することを目的としています。

【主な活動内容】

連盟の設立背後には、戦後の教育民主化の議論と附属学校の存続危機があり、附属学校の性質と必要性の正しい説明に尽力し、附属廃止論に対抗しました。しかし、平29年に附属学校の改革に関する有識者会議の報告書がまとめられ、附属学校に合理的機能強化とエビデンスに基づく成果が求められるようになり、それに伴い、令和2年に法人化し、公共性や社会的信用が向上し、より公正な運営が可能となりました。全附P連は、国立大学附属学校とその関係者の共同利益のために活動し、国の公教育に貢献する組織として存在しています。

【設立と組織】

- 昭和24年 「全国国立大学附属学校連盟」(全附連盟)が設立。
- 昭和27年 「全附P連」が保護者と教職員の組織として設立。
- 令和2年 「一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会」として法人化。

全附P連は、各省庁と連携し、その取組みに協力しています！



全附P連SNS

